

# 原因不明の「声が出ない」苦しみから、 再び声を響かせるまでの7回の軌跡



機能性発声障害（心身条件反射療法による改善症例）

患者：47歳 女性 / 高校教員・部活動監督

# 責任感の強いリーダーを突然襲った、原因不明の喉の詰まり



## 患者像

47歳 女性（ウインターカップ出場校の女子バスケットボール部監督）

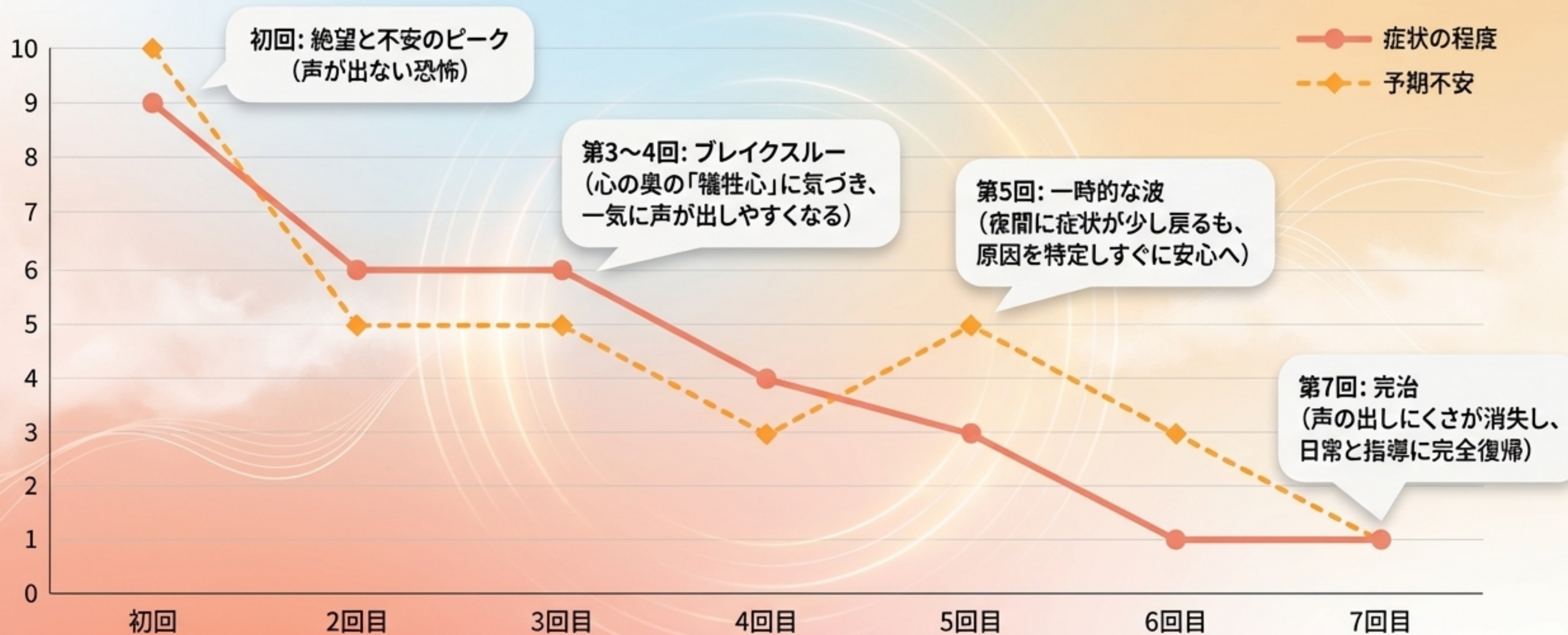
## 発症の経緯

1ヶ月前から症状が激化。特に練習中、選手を集めて指導しようとする時喉が詰まり、声が出なくなる。指導に大きな支障をきたす状態。

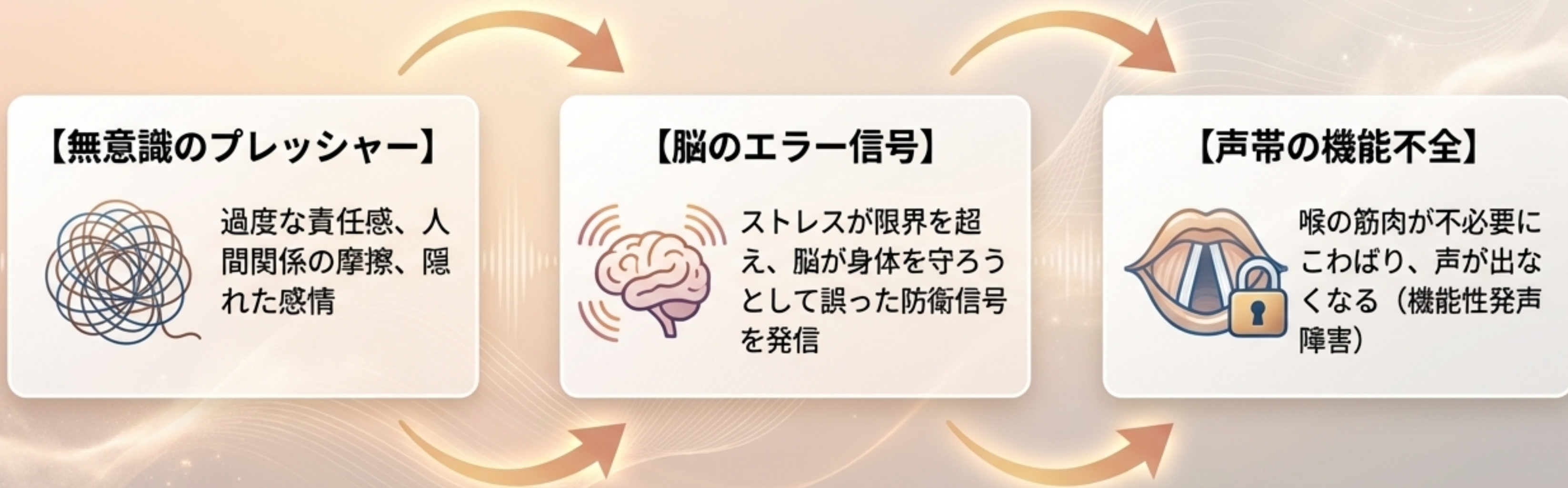
## 絶望感

現代医療の検査では異常が見つからず、「なぜ声が出ないのか」という強い予期不安（10/10）を抱える。

# わずか7回の施術で、劇的な改善を遂げた回復の道のり



# 喉の構造的な故障ではなく、脳からの「誤作動信号」が原因でした



治療の鍵は、喉を直接治すことではなく、脳の「誤作動記憶」を紐解き、エラー信号をリセットすること（心身条件反射療法：PCRT）。

# エラー信号を引き起こしていた、複雑に絡み合う「感情の正体」

プロとしての重圧（部活監督）

結果が出ない恐怖  
理想の監督像への警戒心

チームの成長への願い  
学校への貢献と犠牲心

不安・恐れ

愛情・責任

選手の両親からの  
評価に対する警戒

姉や夫との心の動き  
娘の入部に対する  
母親としての犠牲心

プライベートな感情（家族）

バスケットとは無関係に思える  
「家族への思い」さえも、  
無意識下でリンクし、  
喉を詰まらせる原因と  
なっていました。

# 深い気づき（なるほど）が生まれた瞬間、声帯のロックが外れる



第3～4回の施術。  
「監督として結果を求める重圧」と  
「部員や学校への犠牲心・貢献」という  
自分自身の隠れた『心のルール』が  
明確になった瞬間。



患者様の表情がすっきりと晴れ、  
施術前よりも明らかに声が出るように。  
「納得感」が脳のエラーを書き換えた証拠  
です。（症状スコア 6 → 4 へ激減）

回復への道は一直線ではありません。波があっても確実に前へ進みます



- ✓ 一時的な後退:  
順調に回復していた中、夜の自宅で突然の喉の詰まりを再発。不安が急上昇。
- ✓ 原因の特定:  
施術による検査で、「夫との心の動き (忠誠心)」という新たな無意識の反応を特定。
- ✓ 迅速なリセット:  
原因を認識し調整することで即座に陰性化。  
次の回 (第6回) では症状スコアが「1」へと劇的に改善。

症状の揺り戻しは「失敗」ではなく、  
治癒への「最終調整」です。

喉の詰まりは、心があなたに送っていた「サイン」に過ぎません  
送っていた「サイン」に過ぎません



約3ヶ月、全7回の施術を経て、指導中の声の出しにくさは完全に消失し、  
生活に支障のない状態（完治）へと至りました。

機能性発声障害は、あなたの心が弱いたためでも、喉が壊れたためでもありません。  
頑張りすぎた脳が発したサインです。

絡み合った糸を一つずつ解きほぐせば、必ずまた、あなたらしい声は戻ってきます。